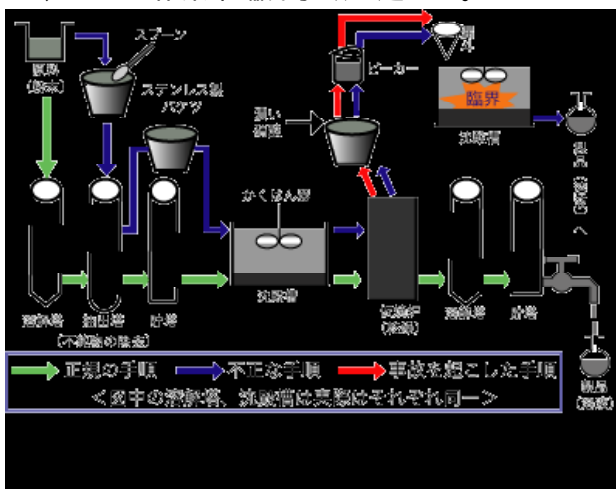


1999年9月30日、茨城県東海原発にある、JCOで作業中臨界事故が起きた。

三人の作業員が作業中、臨界事故が起き大量の被曝で、直ちにヘリコプターで千葉県にある放射能研究所病院に搬送され治療を受けたが、作業員の大内さんが59日後の99年12月21日死亡、篠原さんが83日後の00年4月23日に亡くなった。もう一人は監督者で数メートル離れていたため一命はとりとめ99年12月20日無事退院した。



周辺の住民も強制避難し、健康調査が行われたが、異常なしと診断され、その後体調不良を訴え、損害賠償を求める訴訟を起こしたが、因果関係が認められず却下された。



Q：外部被曝と内部被曝で身体影響に相違がありますか？

A：外部被曝：外部被曝は身体外部に放射線を浴びた、放射性物質が付着して放射線を放射した、ことですが 腺以外はそれほど飛びません。 腺が空気中 1.5m 程度、 腺は数 cm ですから、放射性物質が大量に放射線を発してそばに近づかなければ外部被曝の心配はありません、が、原爆投下後数時間して降った黒い雨や、第五福竜丸は黒い雪と言われるくらいの放射性物質のチリや粒子でしたから、怖ろしい外部被曝でした。

内部被曝：呼吸で浮遊していた放射性物質を帯びたチリやホコリを吸い込んでしまった。放射性物質が付着した食物、飲料水等を摂取してしまった。これが体内でどんな活動をす